

2011（平成23）年紙・板紙内需試算報告

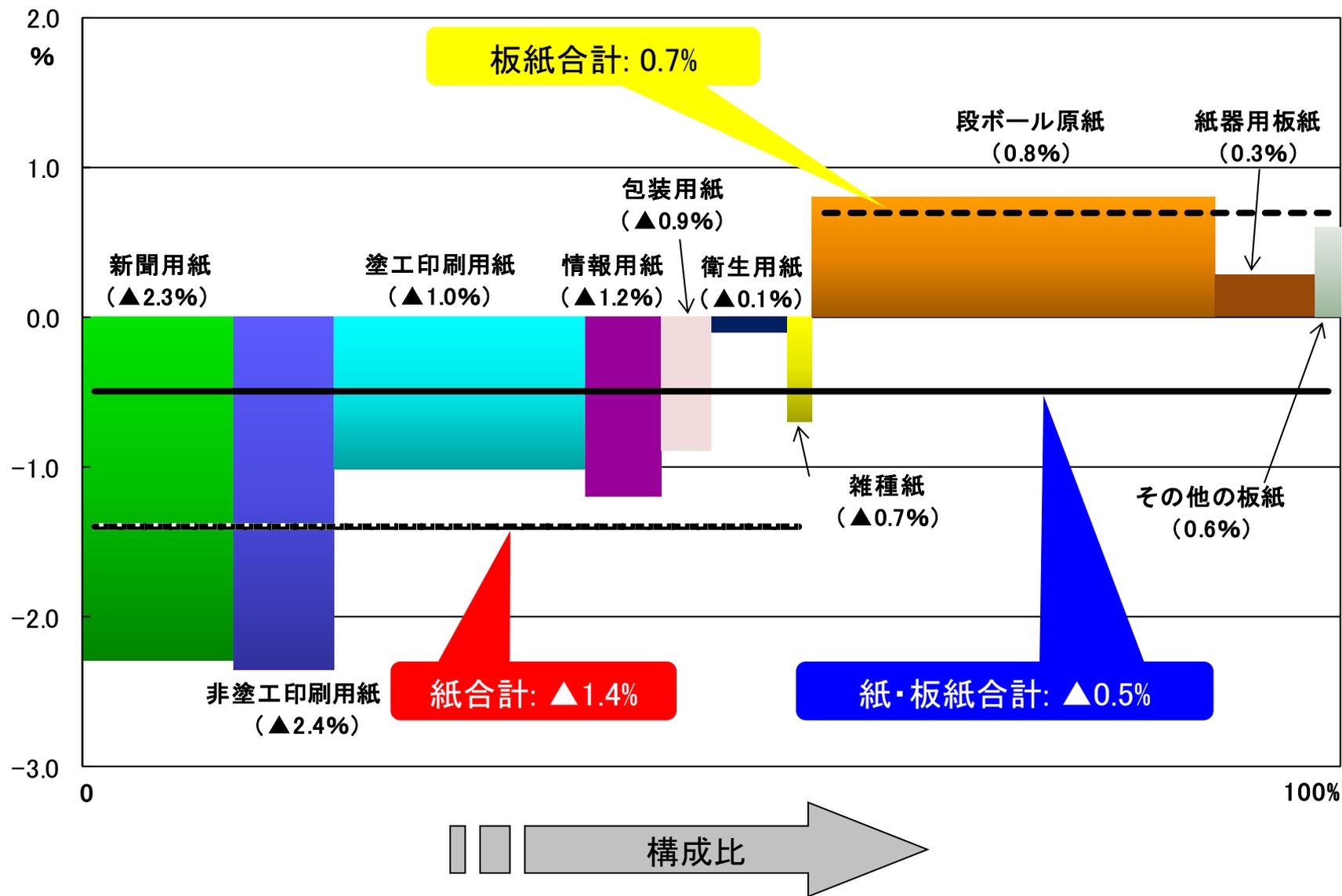
平成23年1月20日

日本製紙連合会

内 容

- I . 2011(平成23)年 紙・板紙内需試算(総括)…P1～5
- II . 2011(平成23)年 品種別内需試算…P6～25
- III . 2010年 紙・板紙内需実績見込み…P26
- IV . 参考…P27～28

I. 2011 (平成23)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



② 2011 (平成23)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

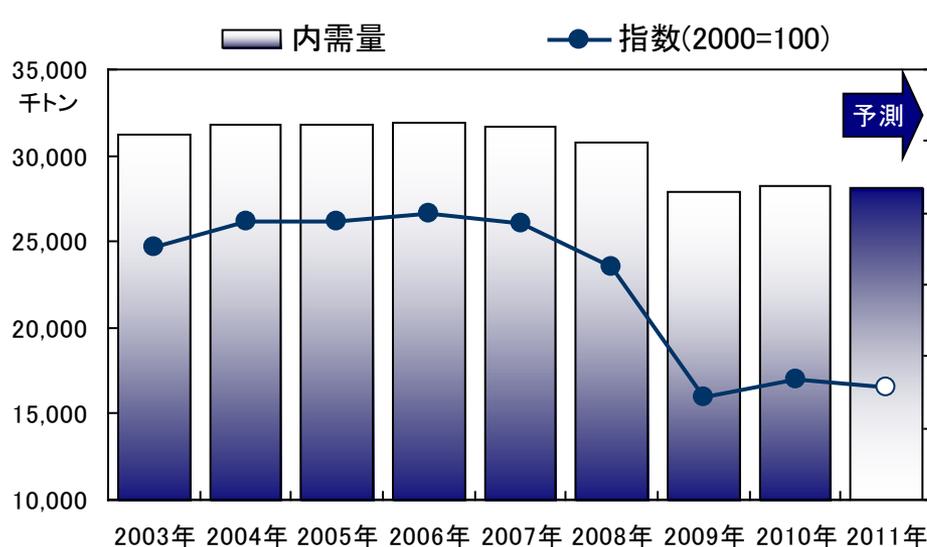
	品 種	2003年		2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年見込み		2011年見通し	
紙	新聞用紙	3,677	▲ 0.7	3,755	2.1	3,759	0.1	3,764	0.1	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,354	▲ 1.8	3,277	▲ 2.3
	非塗工印刷用紙	3,195	▲ 2.3	3,194	▲ 0.0	3,154	▲ 1.3	3,102	▲ 1.6	3,055	▲ 1.5	2,830	▲ 7.4	2,581	▲ 8.8	2,494	▲ 3.4	2,435	▲ 2.4
	塗工印刷用紙	6,538	3.5	6,807	4.1	6,876	1.0	6,954	1.1	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,686	▲ 12.7	5,557	▲ 2.3	5,500	▲ 1.0
	情報用紙	1,937	2.6	1,981	2.3	1,977	▲ 0.2	1,992	0.8	2,005	0.7	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,891	2.4	1,868	▲ 1.2
	印刷・情報用紙計	11,670	1.7	11,982	2.7	12,006	0.2	12,048	0.3	11,878	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,115	▲ 10.9	9,942	▲ 1.7	9,804	▲ 1.4
	未ざらし包装紙	599	0.8	603	0.6	598	▲ 0.8	604	1.0	612	1.3	588	▲ 3.9	491	▲ 16.5	553	12.7	547	▲ 1.0
	さらし包装紙	348	▲ 3.2	352	1.0	354	0.6	362	2.2	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.0	300	3.2	298	▲ 0.7
	包装用紙計	947	▲ 0.7	955	0.8	952	▲ 0.3	966	1.5	981	1.6	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	853	9.2	845	▲ 0.9
	衛生用紙	1,710	0.3	1,739	1.7	1,796	3.3	1,821	1.4	1,805	▲ 0.9	1,814	0.5	1,803	▲ 0.6	1,802	▲ 0.1	1,801	▲ 0.1
	雑種紙	880	0.4	894	1.5	826	▲ 7.6	852	3.1	872	2.4	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	801	12.3	795	▲ 0.7
	紙 計	18,885	0.9	19,324	2.3	19,339	0.1	19,450	0.6	19,251	▲ 1.0	18,562	▲ 3.6	16,826	▲ 9.3	16,752	▲ 0.4	16,522	▲ 1.4
板	ライナー	5,543	0.1	5,616	1.3	5,616	▲ 0.0	5,621	0.1	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,229	4.1	5,271	0.8
	中しん原紙	3,647	1.1	3,694	1.3	3,726	0.9	3,761	0.9	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,493	3.6	3,521	0.8
	段ボール原紙計	9,190	0.5	9,310	1.3	9,342	0.3	9,381	0.4	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,722	3.9	8,792	0.8
	白板紙	2,029	0.2	2,037	0.4	2,029	▲ 0.4	2,031	0.1	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,952	3.5	1,958	0.3
	黄チップ・色板	210	0.2	209	▲ 0.3	206	▲ 1.4	205	▲ 0.5	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.7	155	0.0
	紙器用板紙計	2,239	0.2	2,246	0.3	2,236	▲ 0.5	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,107	3.5	2,113	0.3
	その他の板紙	881	0.3	880	▲ 0.1	858	▲ 2.5	867	1.0	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	666	8.7	670	0.6
板 紙 計	12,309	0.4	12,435	1.0	12,435	▲ 0.0	12,485	0.4	12,461	▲ 0.2	12,177	▲ 2.3	11,046	▲ 9.3	11,495	4.1	11,575	0.7	
紙・板紙計	31,194	0.7	31,759	1.8	31,774	0.0	31,935	0.5	31,712	▲ 0.7	30,739	▲ 3.1	27,872	▲ 9.3	28,247	1.3	28,097	▲ 0.5	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

③ 2011 (平成23)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気回復の継続(但し、経済成長率は2010年より鈍化の見込み)</p> <p>②イベント開催 ■統一地方選挙(4月) ー主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響 ■第42回東京モーターショー2011(12月) 「次世代自動車とそれを取り巻く社会システム」を提示 ー主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>③住宅版エコポイント制度・フラット35Sの金利優遇拡大措置の適用延長等による住宅需要の増加</p> <p>④旅行需要の増加(円高/九州・東北新幹線の路線拡大等) ー主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>⑤異常気象がなければ青果物市場の回復 ー主に段ボール原紙に影響</p> <p>⑥内食化/家ナカブームの継続 ー主に白板紙・段ボール原紙に影響</p> <p>⑦ジェネリック医薬品の普及 ー主に白板紙・段ボール原紙に影響</p> <p>⑧花粉飛散量が多いと予想される ー主にティシュペーパーに影響</p>	<p>①構造的要因の定着 ■広告の紙離れ(ネット広告へのシフト)</p> <p>■紙の出版物の減少(活字離れ、出版社の返品率改善努力等。電子書籍の影響は軽微?)</p> <p>■需要家の用紙関連コスト削減の動き ・目論見書、契約書、帳票類等の電子化 ・チラシ・カタログ・パンフレット類、取扱説明書等の廃止/部数削減/サイズ縮小 ・省資源や経費削減に伴う全般的な節約の動き ・軽量品および低グレード品へのシフト</p> <p>■企業の海外生産シフトの継続</p> <p>■人口減/少子高齢化</p> <p>②エコカー補助金・家電エコポイント制度終了による反動減 ー主に印刷・情報用紙、段ボール原紙に影響</p> <p>③国勢調査・煙草増税等関連特需の反動減</p>

Ⅱ. 2011(平成23)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計



「近年の動向」

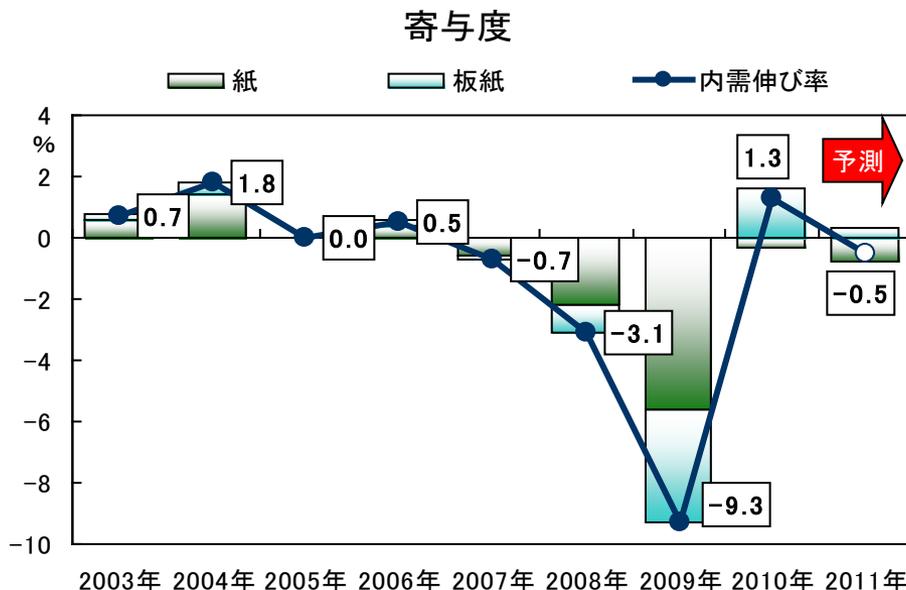
★紙・板紙の内需はリーマン・ショック後、大きく数量を落としたが、昨年は景気回復等もあり2006年以来4年ぶりに前年を上回った。回復に寄与したのは、主に板紙、包装用紙の分野であり、他方、新聞用紙、印刷・情報用紙等グラフィック系を主力とする紙分野は、減少幅が縮小するにとどまり、明暗を分けた感があった。サプライ別には、国内出荷、輸入とも前年を上回ったが、流通在庫は増加した(27頁参照)。

「2011年予測」

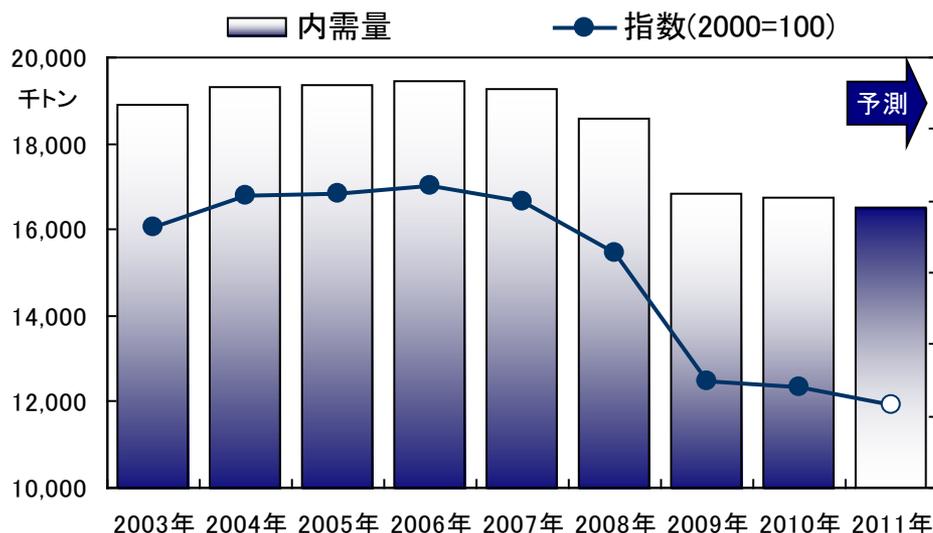
☆アンケート、ヒアリング等による2011年のベースシナリオについて、実質GDPは2年連続のプラス成長が見込まれるが、3月には家電エコポイント制度が終わる等政策効果が剥落するほか、世界経済の減速による輸出の伸び悩み等から成長のスピードは大きくダウン。かかる景気減速の下、紙・板紙の内需は、板紙は弱いながらもプラスを見込むが、他方、紙では、企業の広告費抑制継続や代替媒体へのシフト等もあり、新聞用紙、印刷・情報用紙等グラフィック系を中心に前年を下回ることが見込まれるため、紙・板紙全体では微減と予測した。

☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,809万トン、前年に対して0.5%減、15万トンの減少となる。過去の実績値と比較すると、1990年代前半を僅かに下回り、また、過去最高の2000年(3,196万トン)に対しては9割弱(87.9%)のレベルである。

☆紙・板紙別寄与度について、紙は0.8%減、板紙は0.3%増と、板紙はプラスも、紙はマイナスの見込みである。



(2) 紙合計



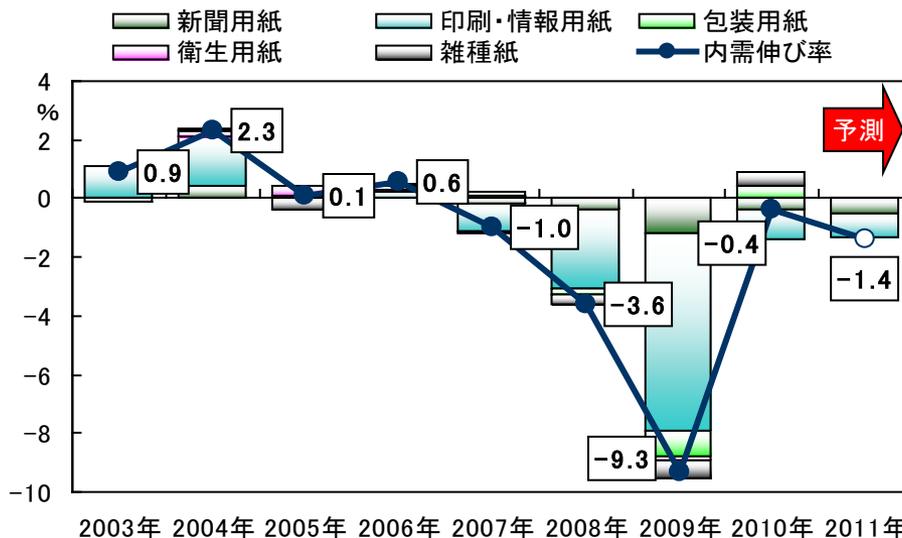
「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに縮小している。特にリーマン・ショック後、大きく数量を落としたが、昨年は景気回復等もあり、一部の品種は増加に転じたものの、新聞用紙、印刷・情報用紙等グラフィック系は構造的要因等から引き続き前年を下回り、紙全体では4年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は微増、輸入は前年を下回り、流通在庫は増加した(27頁参照)。

「2011年予測」

☆主要品種については、いずれも前年を下回ると予測した。新聞用紙、印刷・情報用紙等グラフィック系は引き続き低調であり、また、前年高い伸びを示した包装用紙も減少に転じる。衛生用紙は軽微な減少にとどまる。

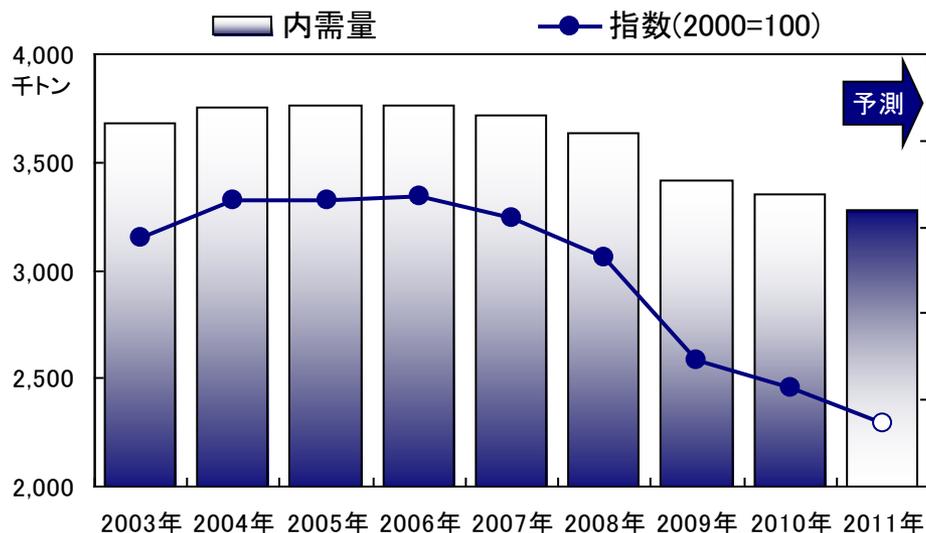
寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,652万トン、前年に対して1.4%減、23万トンの減少となる。マイナス成長は5年連続、過去の実績値と比較すると、1990年代前半、また、過去最高の2006年(1,945万トン)に対しては8割強(84.9%)のレベルである。

☆品種別寄与度について、新聞用紙は0.5%減、印刷・情報用紙は0.8%減、その他(包装用紙、衛生用紙等)は0.1%減とグラフィック系用紙を中心にマイナスの見込みである。

(3) 新聞用紙



「近年の動向」

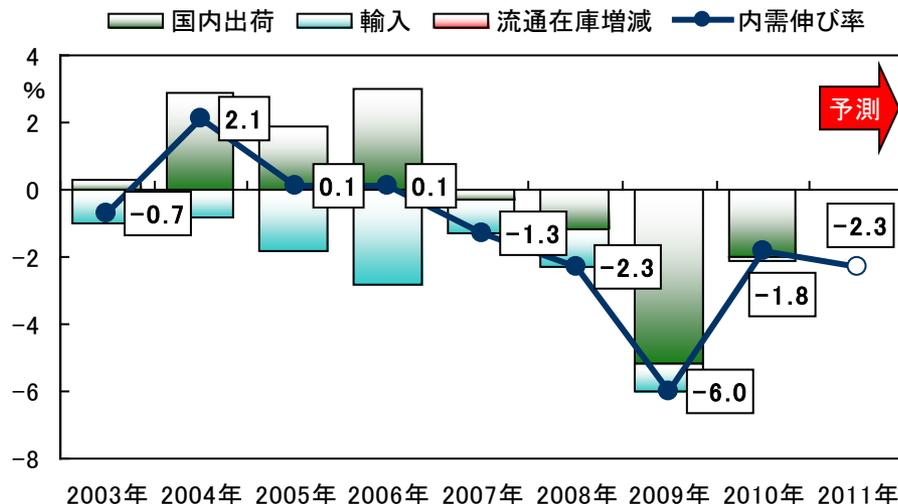
★2010年の新聞用紙の内需は、引き続きマイナスとなった。情報収集手段の変化(多様化)に伴う読者の新聞離れや、広告主の紙媒体からネットへのシフトなどが影響している。

「2011年予測」

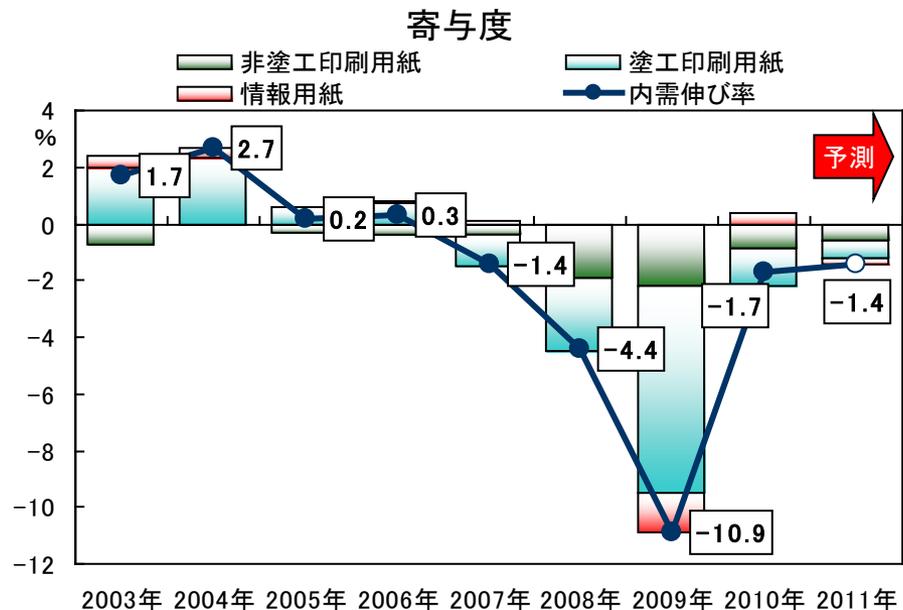
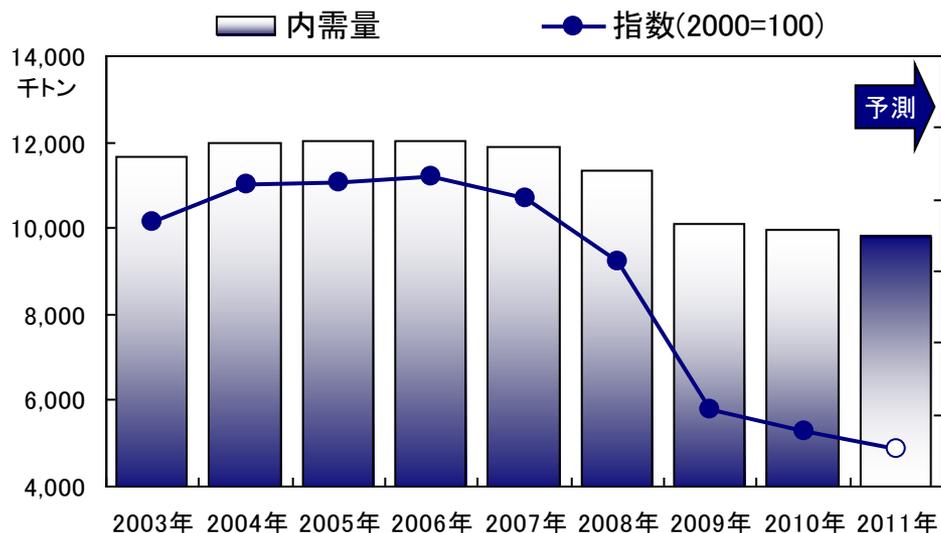
☆新聞用紙の内需は、発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、電子媒体の普及など、情報収集手段の多様化から減少傾向が継続することが予想される。頁数についても、広告出稿の増加は期待できず、低調に推移する見通し。なお、スポット要因としては、統一地方選があるが、大きな期待は持てない。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し2.3%の減少と予測した。

寄与度



(4) 印刷・情報用紙



「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小しており、特にリーマン・ショック後、大きく数量を落としている。昨年は景気回復等もあり、また、一部品種では特需関連等から増加に転じたものの、6割弱を占める塗工印刷用紙を中心に減少に歯止めがかからず、印刷・情報用紙全体では4年連続の減少となった。また、1994年以来16年ぶりに1,000万トンを下回った。サプライ別には、国内出荷は微増、輸入は前年を下回り、流通在庫は増加した(27頁参照)。

「2011年予測」

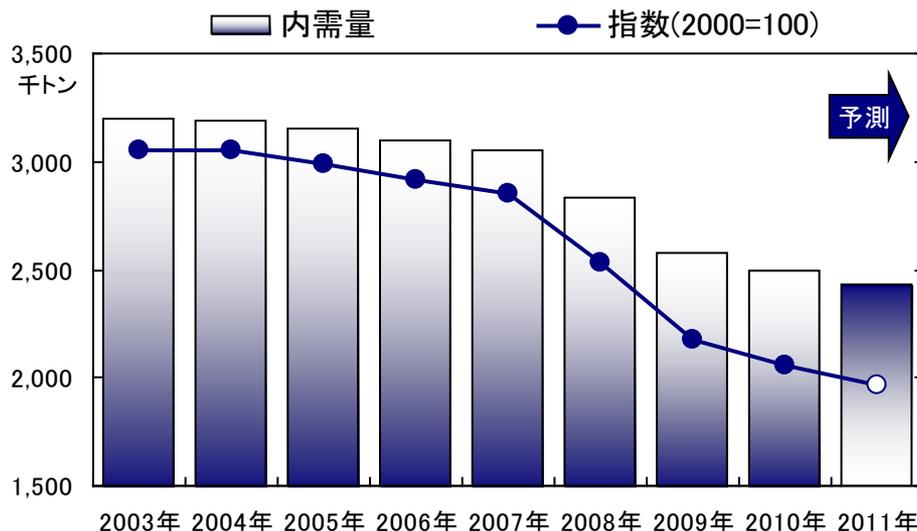
☆主要品種について、非塗工、塗工、情報とも前年を下回ると予測した。非塗工、塗工は主に商業印刷、出版印刷向けの低迷により、また、情報は一部品種における特需反動等から前年のプラスからマイナスに転じる。

☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は980万トン、前年に対し1.4%減、約14万トンの減少となる。減少幅は縮小するものの、マイナス成長は5年連続、前年に続き1,000万トンを下回る見込みである。

☆品種別寄与度について、非塗工印刷用紙は0.6%減、塗工印刷用紙は0.6%減、情報用紙は0.2%減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

(4)-① 非塗工印刷用紙



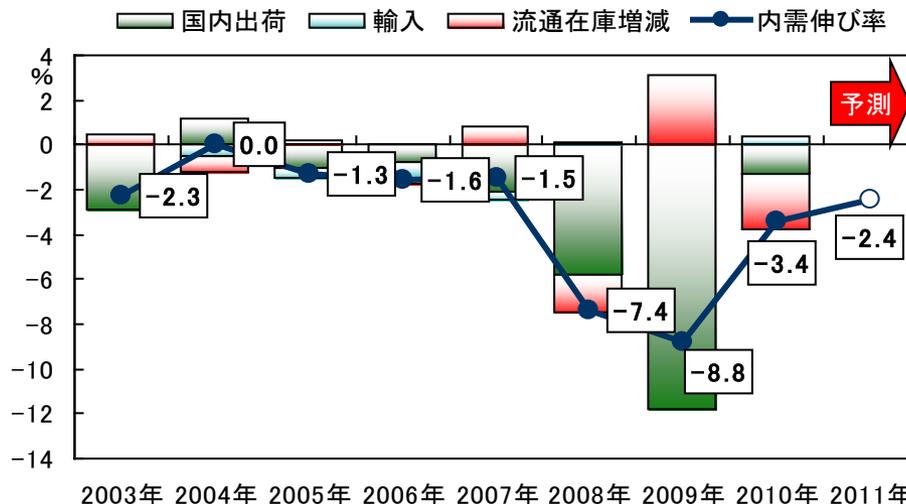
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は出版印刷向けの不振や塗工印刷用紙へのシフト等により縮小しており、また、他の品種同様、リーマン・ショック後、大きく数量を落としている。昨年は景気の回復もあり、減少幅は縮小したが、長期低落傾向には歯止めはかからず、10年連続の減少となった。サプライ別には、約9割を占める国内出荷は前年を下回ったが、輸入は3年連続で前年を上回り、流通在庫は増加に転じた。

「2011年予測」

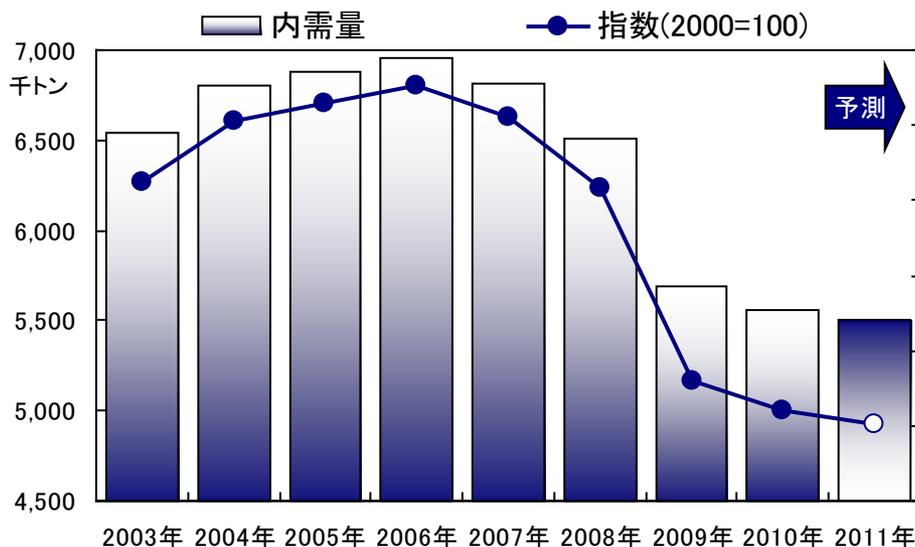
☆品種別について、上級印刷用紙は、汎用性が高く、チラシや目論見書・取扱説明書等用途は広範囲に及び、また、他品種からのシフトもあるが、小口印刷物の内製化、電子化に伴う帳票類等の減少傾向の継続等により微減。中・下級印刷用紙は、主たる需要先である出版業界の不振（①広告の減少等から月刊誌、週刊誌等の定期刊行物は不振継続/休廃刊等発行部数の減少、②電子書籍の影響は軽微も多機能端末等電子媒体へのシフト:情報ツールの多様化）等により、引き続き厳しい状況にあり、フリーペーパーも広告の不振から期待できない。

寄与度



☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.4%の減少と予測した。減少幅は僅かながら縮小するものの、中・下級印刷用紙を中心にダウントレンドは続くと見た。

(4)-② 塗工印刷用紙



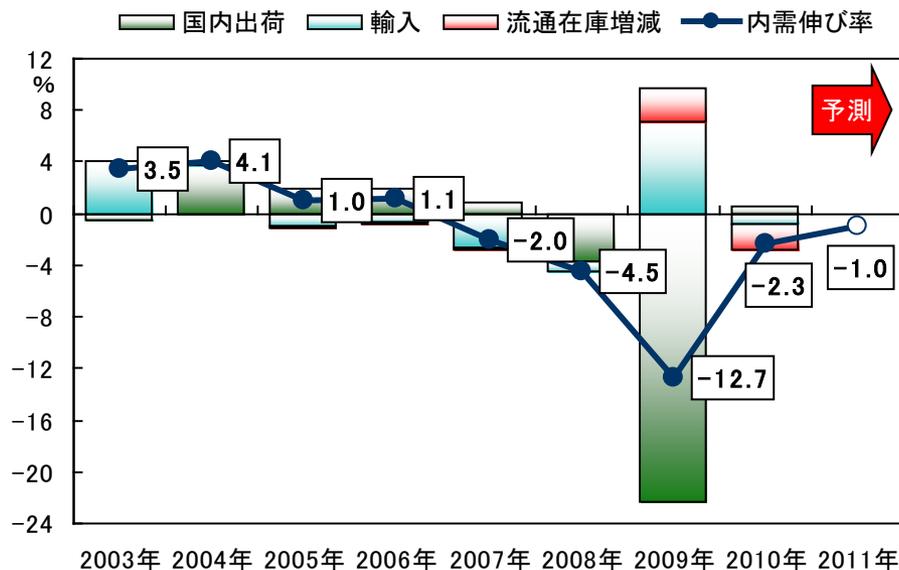
「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は2007年より縮小、特にリーマン・ショック後、大きく数量を落としている。昨年は景気回復も商業印刷向けの不振等から減少幅が縮小したにとどまり、4年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は前年並み、輸入は前年を下回り、流通在庫は減少した。

「2011年予測」

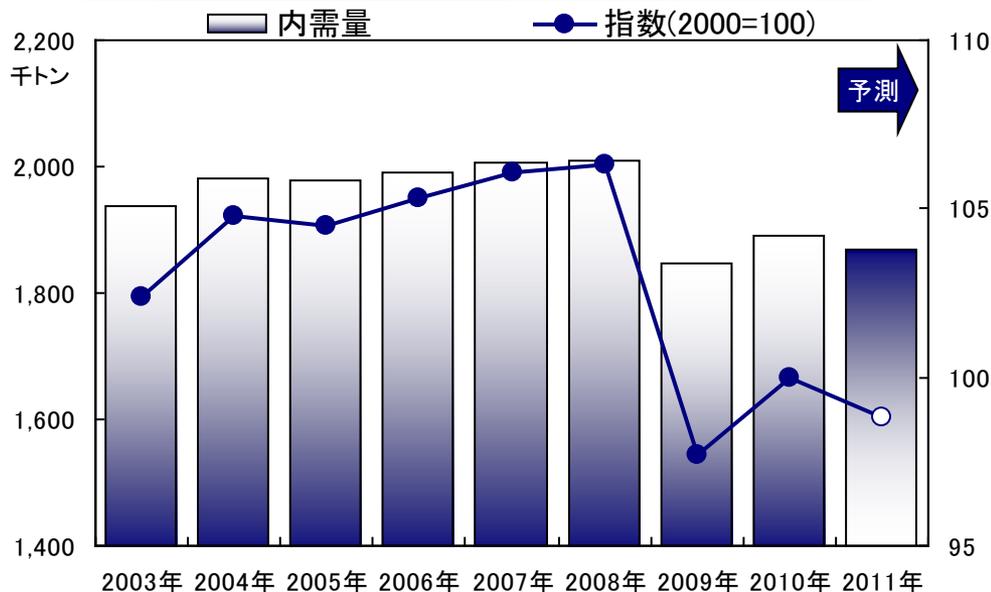
☆景気は弱いながらも引き続き回復が見込まれるものの、需要各社の継続的なコストダウン、広告宣伝費の抑制継続等により、カタログ、チラシ等広告媒体としての需要は低調(部数減、枚数減、サイズダウン等)。また、インターネット等他の広告媒体へのシフトや、品種のグレードダウン、低米坪化も予想されるため、あまり期待は持てない。

寄与度



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し1.0%の減少と予測した。落ち幅は縮小するものの、企業のコストダウンによる広告宣伝費の抑制継続を主因に、主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙とも微減ではあるが、いずれも前年を下回ると見た。

(4)-③ 情報用紙



「近年の動向」

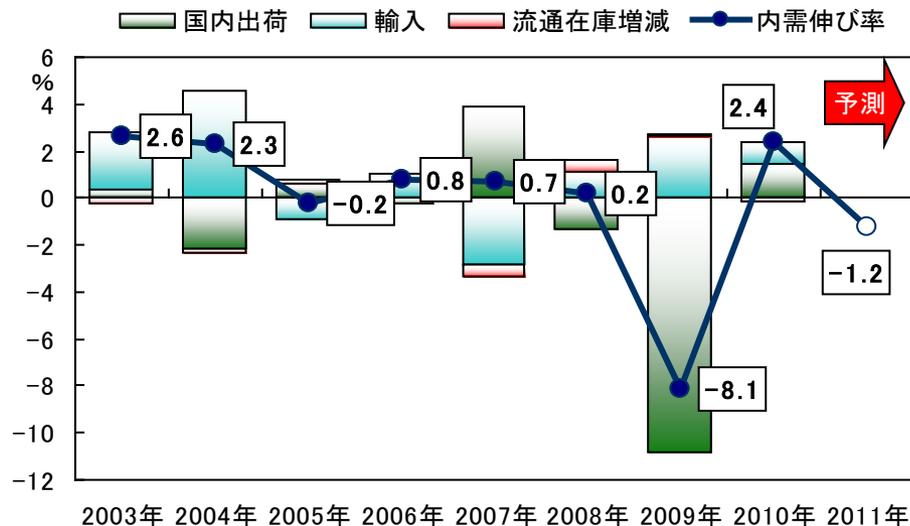
★情報用紙の内需は、近年、PPC用紙を中心に堅調に推移してきたが、2009年は大幅に減少した。2010年は前年の落ち込みが余りに急だったために反動増が出たことに加え、法改正や国勢調査に伴うスポット需要もあり、前年比プラスに転じている。

「2011年予測」

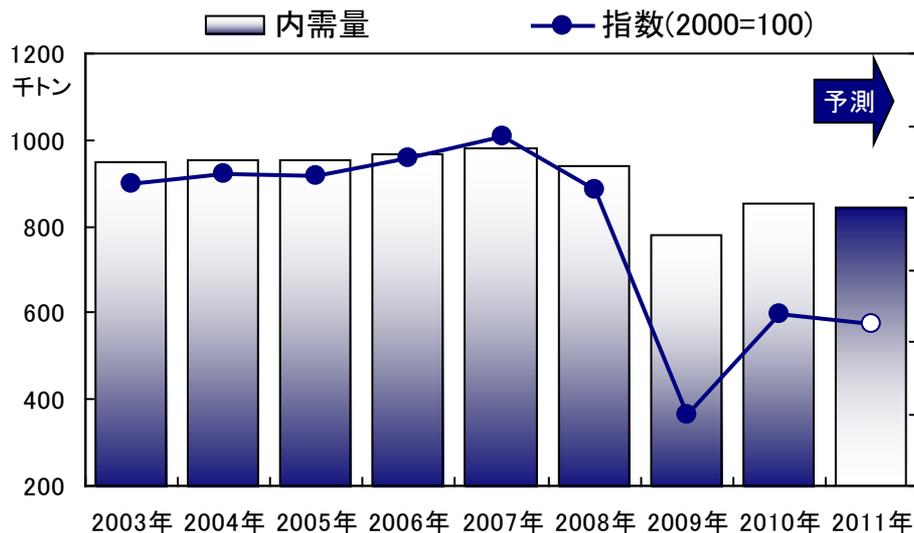
☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は続いているが、既に使用削減が一巡した感もあり、前年と同水準程は期待しうる。一方、フォーム用紙は、デザインフォームについてDPS向けは底堅い需要が期待できるものの、電子化やカット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙についても、帳票類の減少(単票化、ペーパーレス化)等により、前年を下回る見通しである。情報記録紙については、ラベルやチケット向けの感熱紙等、堅調な分野もあるが、全体として大きな期待はできない。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.2%の減少と予測した。

寄与度



(5) 包装用紙



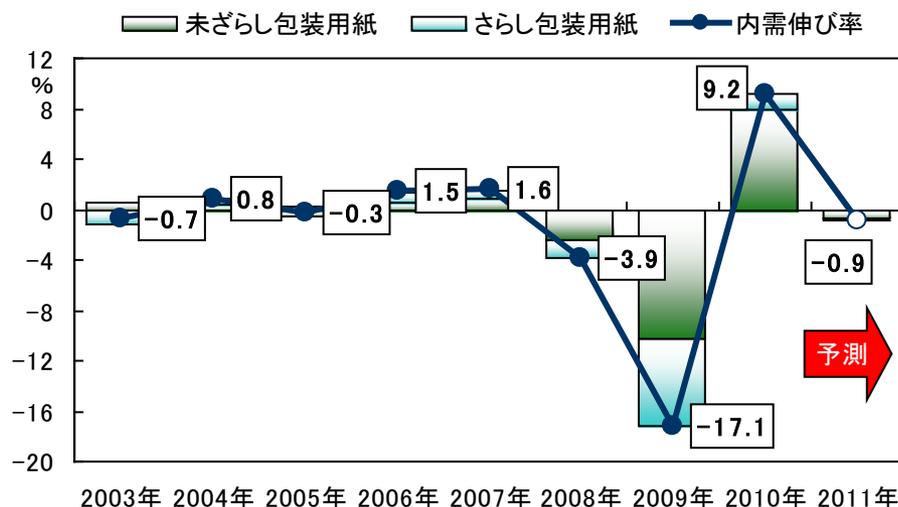
「近年の動向」

★包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間は横ばい状態(95万トン前後)であったが、2008年は秋以降の急速な景気悪化により前年を下回り、2009年は景気低迷の本格化により未ざらし包装用紙、さらし包装用紙とも急減した。2010年は、前年の大幅減の反動もあって1割近い伸びを示したものの、依然として2007年以前の水準を大きく下回っている。

「2011年予測」

☆品種別にみると、①未ざらし包装用紙は、政策効果の剥落等による産業資材向けの減少により重包装用紙袋向けを中心に前年を下回るものとみられる。②さらし包装用紙は、消費者の節約志向が根強く、袋用・包装用を中心に減少が見込まれる。

寄与度

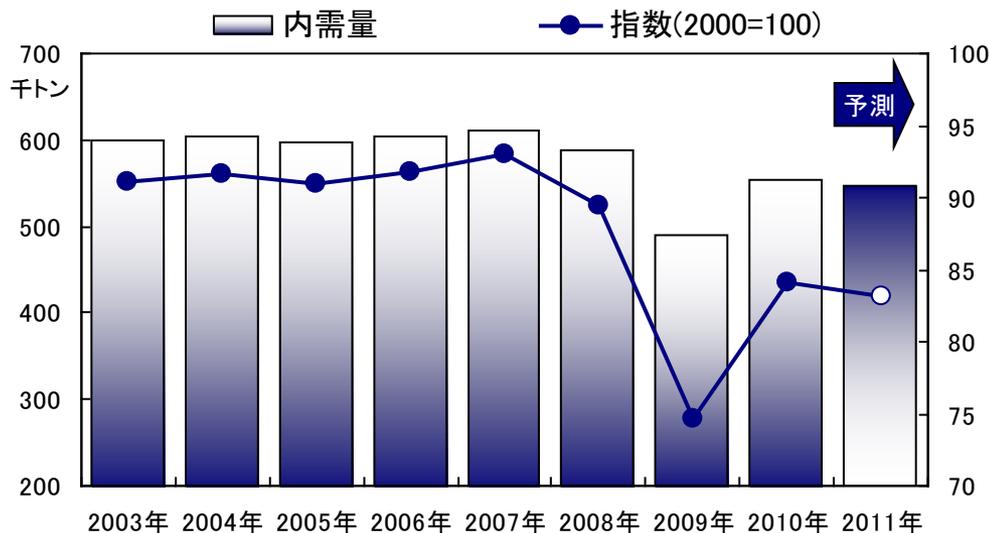


☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は84.5万トン、前年に対し0.9%の減少となる。3年ぶりの増加となった2010年から再び減少に転じ、直近ピークの2007年に対しては13.8%、13.5万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、未ざらし包装用紙が0.7%減、さらし包装用紙が0.2%減の見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

(5) - ① 未ざらし包装用紙



「近年の動向」

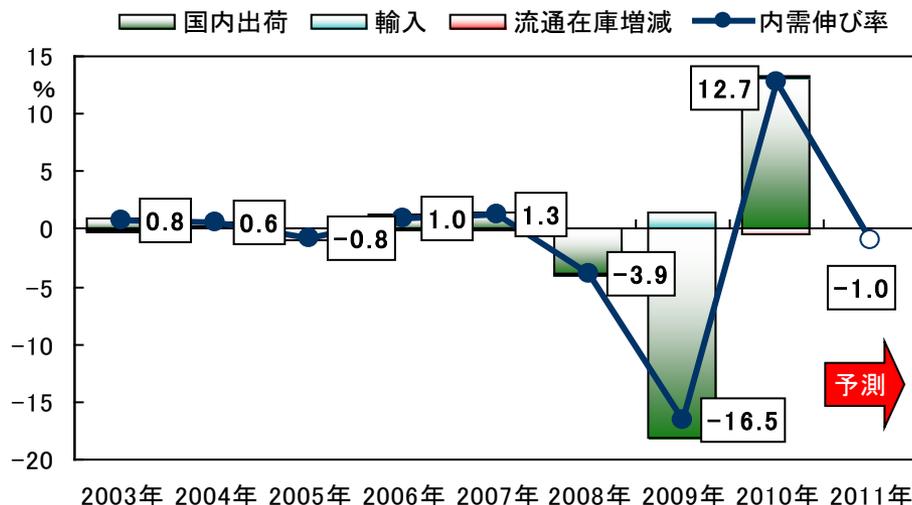
★未ざらし包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間はほぼ横ばい(60万トン前後)で推移した。しかし、2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は景気低迷の本格化により急激な落ち込みとなった。2010年は、前年の反動もあって主力の重袋用両更クラフト紙を中心に1割以上の高い伸びを示したものの、依然として2007年以前の水準を下回っている。

「2011年予測」

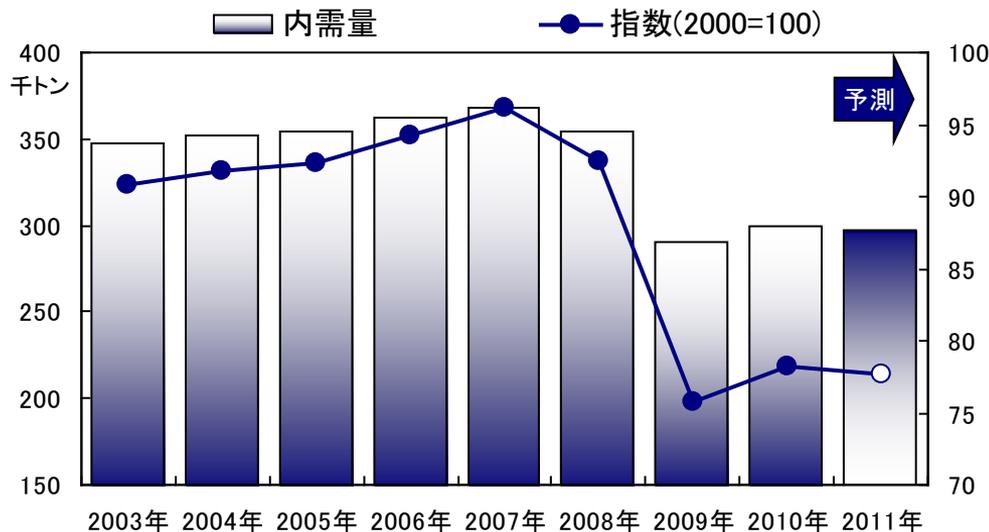
☆品種別にみると、全体の約6割を占める①重袋用両更クラフト紙は、米麦・製粉等の食品向けは前年並みを維持するものの、産業資材向けについては政策効果の剥落や企業の海外生産シフト等の影響により合成樹脂向けを中心に前年を下回ることが予想される。②その他両更クラフト紙は、企業のコスト削減や環境への配慮を目的とした、さらし包装用紙からのシフトによる袋用の需要増は継続するものの、包装用については、省包装化等により減少傾向が続く。封筒用については2010年国勢調査用の封筒需要の減少等により前年を下回ることが予想される。製紙用ワンプは、印刷用紙の需要の減少傾向が続くことから前年を下回ることが見込まれる。

☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し1.0%の減少と予測した。

寄与度



(5) – ② さらし包装用紙



「近年の動向」

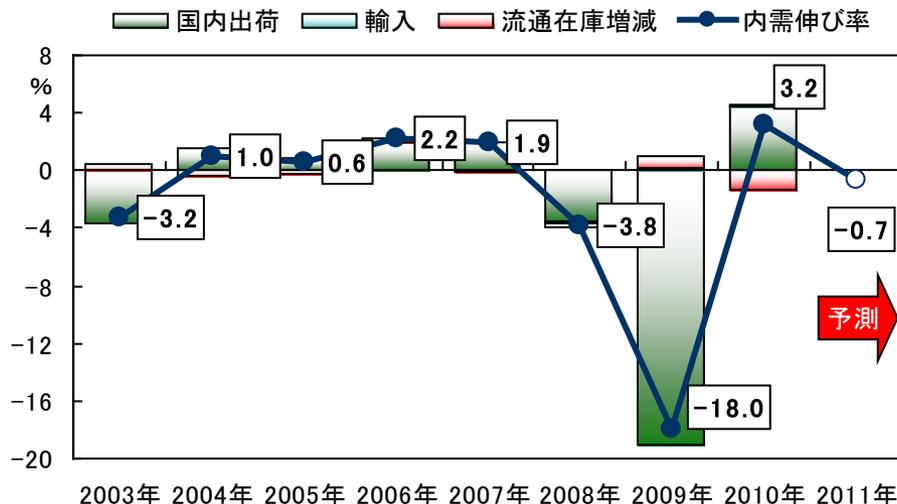
★さらし包装用紙の内需は、2003年を底に2007年までの間は微増傾向で推移してきた。しかし、2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は2割近い急激な落ち込みとなった。2010年は、前年の大幅減の反動もあって増加に転じたものの、依然として2007年以前の水準を大きく下回っている。

「2011年予測」

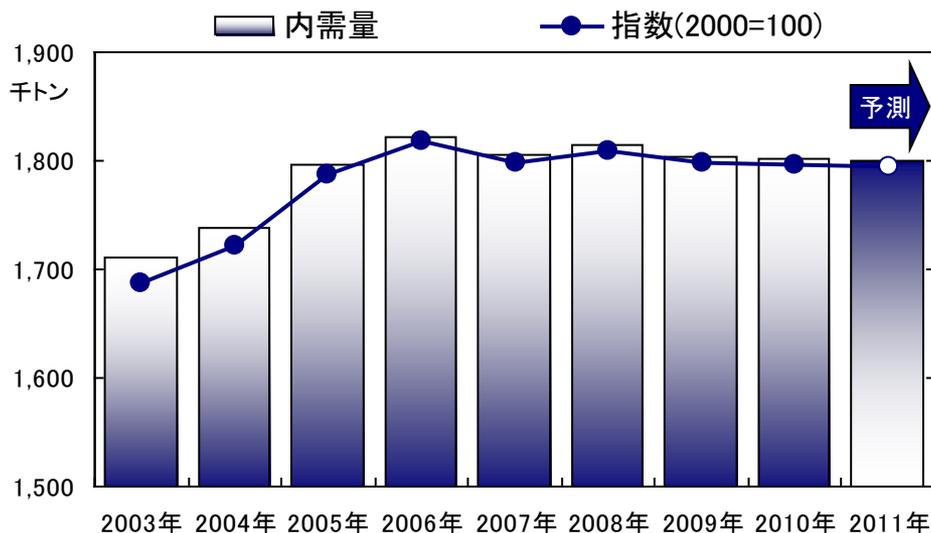
☆品種別にみると、①さらしクラフト紙については、手提袋用は、消費者の根強い節約志向による百貨店や高級専門店、ブランドショップの販売不振、また、企業のコスト削減や環境への配慮から未ざらし包装用紙へのシフト傾向の継続もあり、減少が予想される。封筒用も、引き続き企業の経費削減やDMの圧着ハガキ、電子メールへのシフトにより減少が予想される。②純白ロール紙については、包装用は、百貨店の販売不振や省包装化等により減少傾向が続く。また、加工用も、需要業界の本格回復は見込めず減少が予想される。

☆以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し0.7%の減少と予測した。

寄与度



(6) 衛生用紙



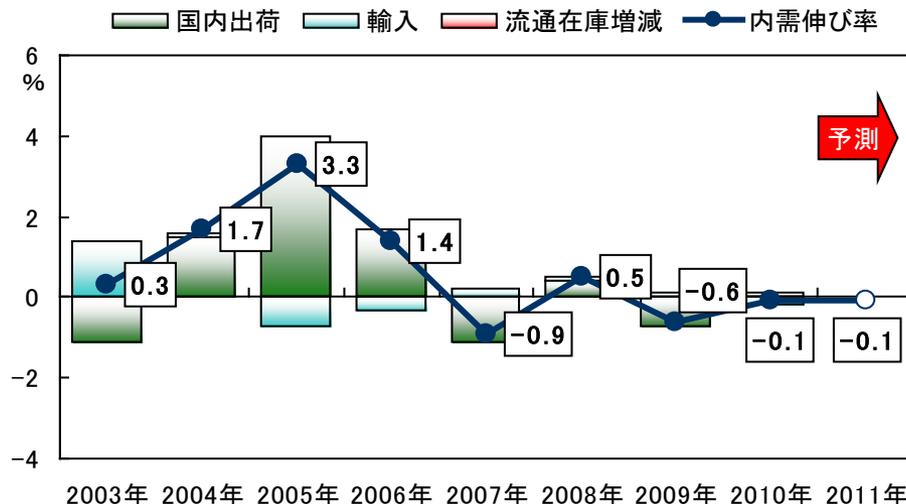
「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、人口減少等の構造的要因はあるものの、2006年をピークにほぼ横ばい傾向にある。2008年秋以降の景気低迷においても紙・板紙の主要品種の需要が軒並み減少する中、微減ながらほぼ横ばいにとどまり、生活必需品としての底堅さを示した。

「2011年予測」

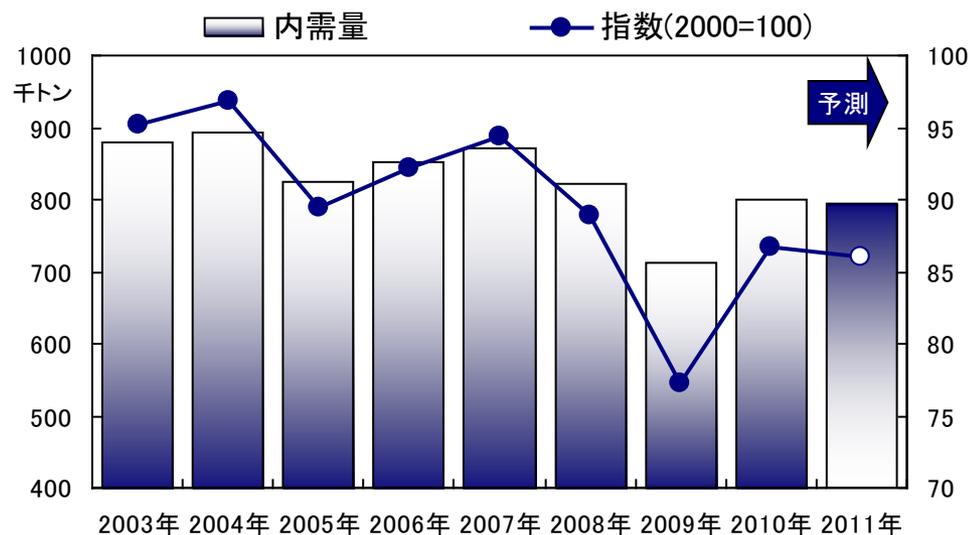
☆衛生用紙は、生活必需品として底堅いものの、消費者の節約志向や買い控え等は根強く、トイレトペーパー、ティシュペーパー等主要品種は前年横ばいもしくは微減と予想される。ティシュペーパーは、節約志向の影響が大きいものの、花粉飛散量の増加や化粧用向け等の高付加価値商品の需要増が期待できる。また、タオル用紙は、新型インフルエンザに伴う需要が一巡したものの、予防衛生意識の定着により増加が見込まれる。

寄与度



☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.1%の減少と予測した。

(7) 雑種紙



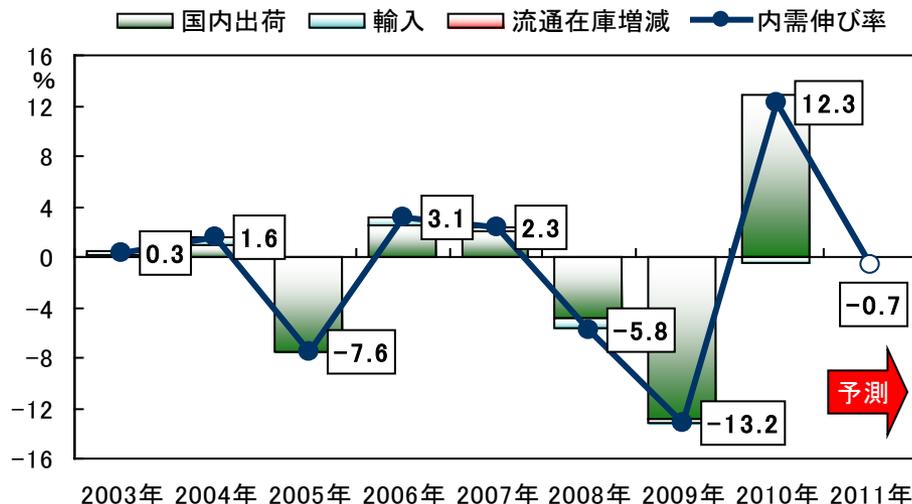
「近年の動向」

★雑種紙の内需は、2009年は各品種とも大幅減となったが、2010年はほとんどの品種で需要が持ち直し、全体として前年を1割以上上回った。例外は食品容器原紙で、コップ向けの不振などにより、前年比マイナスとなっている。

「2011年予測」

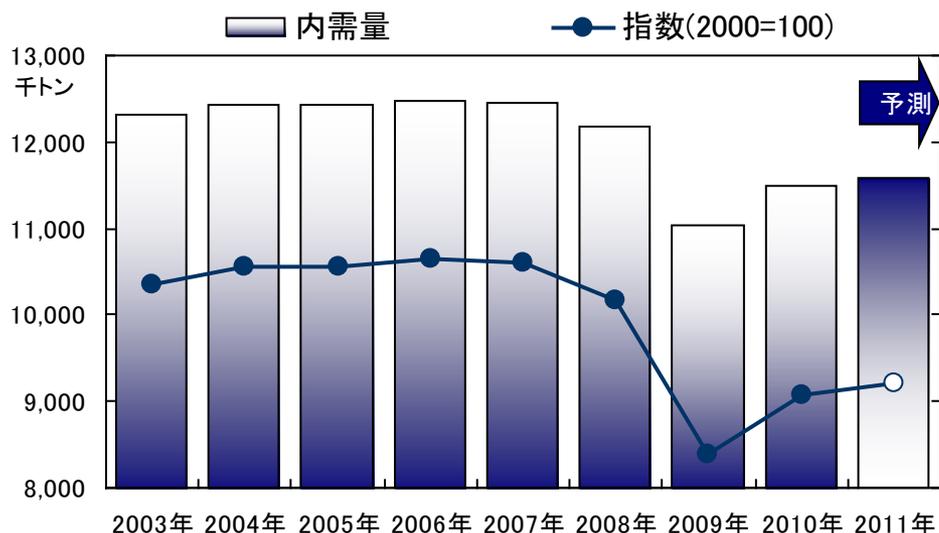
☆2011年は品種によって明暗が分かれそう。①建材用は、住宅着工増もあって、増加が期待できる。②接着紙原紙や積層板原紙は、2011年はほぼ前年並みと予想されるが、中長期的には紙フェノール基板の将来性が疑問視されるなど、減少が見込まれる。③食品容器原紙については、コップ自販機が引き続き減少し、ヨーグルト向け等も不振が続くと予想され、引き続き減少が見込まれる。

寄与度



☆以上を勘案し、雑種紙の内需は前年に対し0.7%減と予測した。

(8) 板紙合計



「近年の動向」

★板紙の内需は2007年より3年連続で縮小、特に紙同様リーマン・ショック後大きく数量を落としたが、昨年は景気回復、なかでもエコカー補助金や家電エコポイント制度等の影響に加え、猛暑特需もあり、2006年以来4年ぶりに前年を上回った。サプライ別には、国内出荷、輸入とも前年を上回り、流通在庫も減少した(27頁参照)。

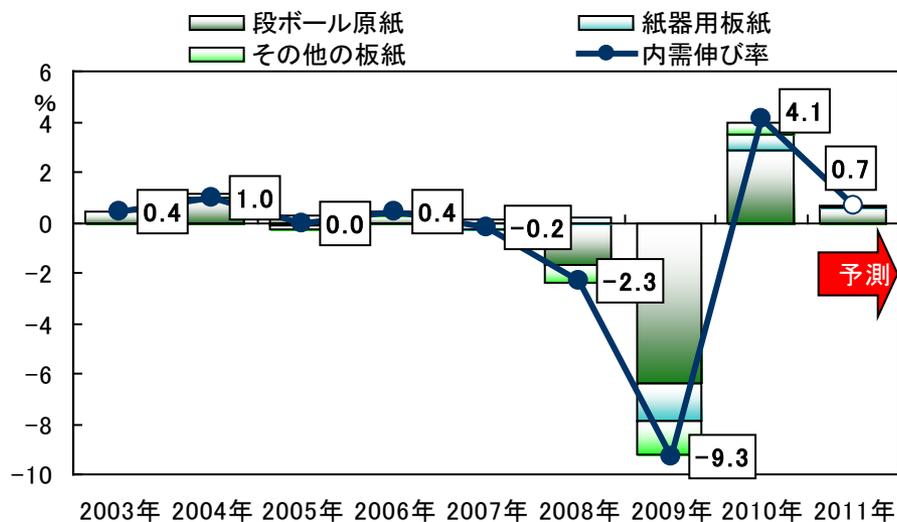
「2011年予測」

☆主要品種について、主力の段ボール原紙を中心にいずれもプラスと予測したが、伸び率は0.7%と1%に届かず、低レベルの回復にとどまる。

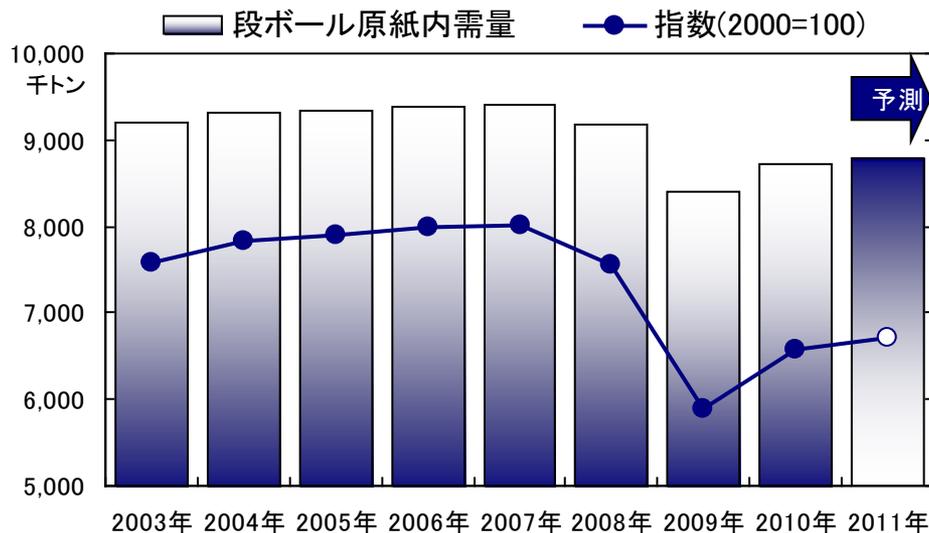
☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,158万トン、前年に対して0.7%増、8万トンの増加となる。2年連続のプラス成長も、過去の実績値と比較すると、1989年当時、また、過去最高の1997年に対しては9割(90.2%)のレベルである。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.6%増、紙器用板紙は0.1%増、その他の板紙は0.0%増と、主力の段ボール原紙を中心にプラスの見込みである。

寄与度



(9) 段ボール原紙①



「近年の動向」

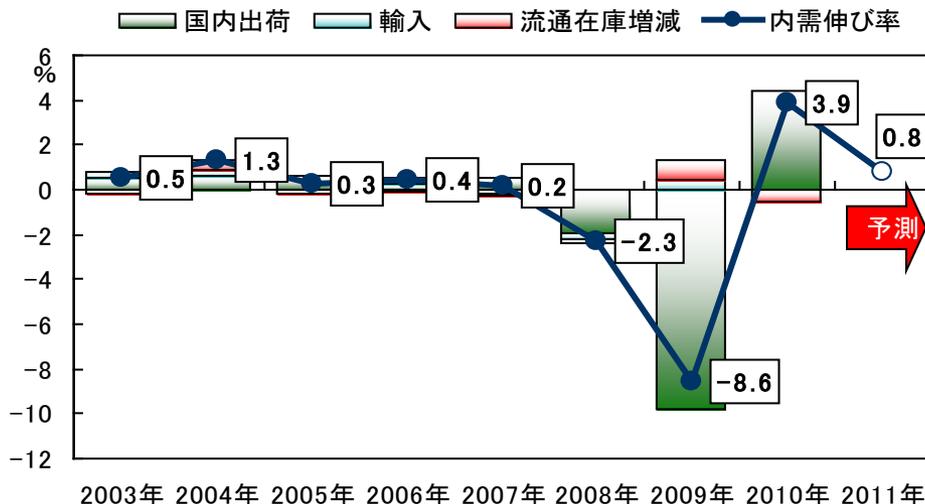
★段ボール原紙は、2003年以降景気回復等に伴い微増で推移してきたが、2008年に経済状況の悪化により6年ぶりのマイナスとなり、2009年は前年からの長引く景気低迷の影響から大幅なマイナスとなった。2010年は前年の落ち込みの反動と記録的な猛暑による需要増もあり、3年ぶりのプラスとなった。

「2011年予測」

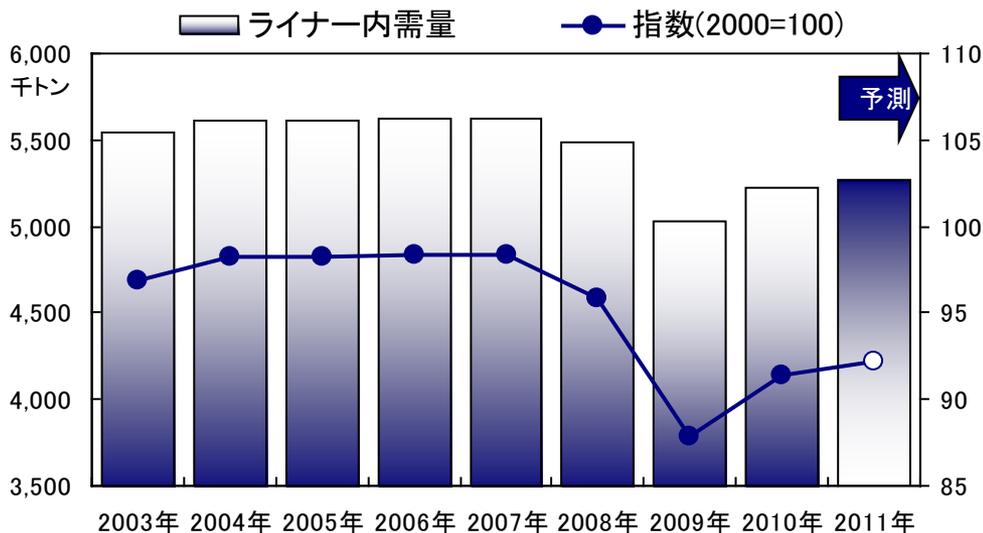
☆段ボールシート生産は、全段連の段ボール需要予測を参考に1.0%増とみた。工業製品等の電気・機械器具向けは円高等を背景に減少が予想されるが、加工食品等の食品向けは堅調に推移するとみられる。需要業界のコスト削減意識は依然強いため、薄物化は続くと予想される。

☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.8%の増加(ライナー0.8%増、中しん原紙0.8%増)と予測した。

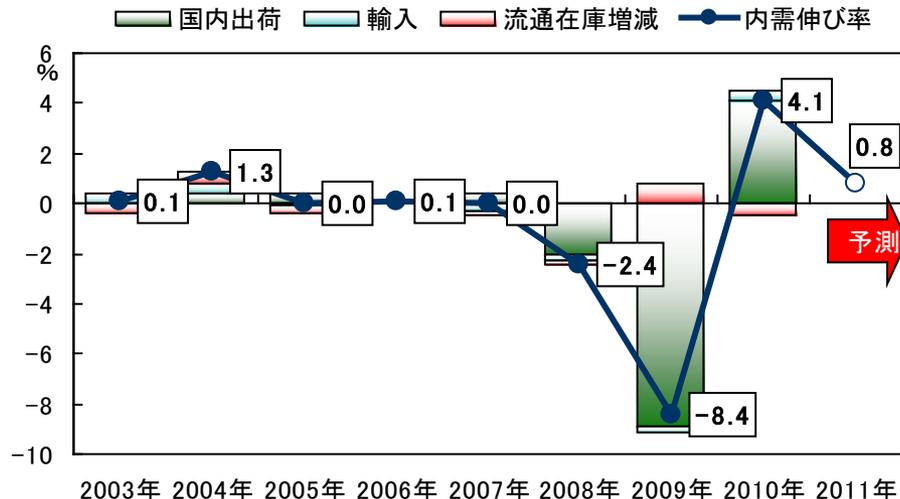
寄与度



(9) 段ボール原紙②



寄与度



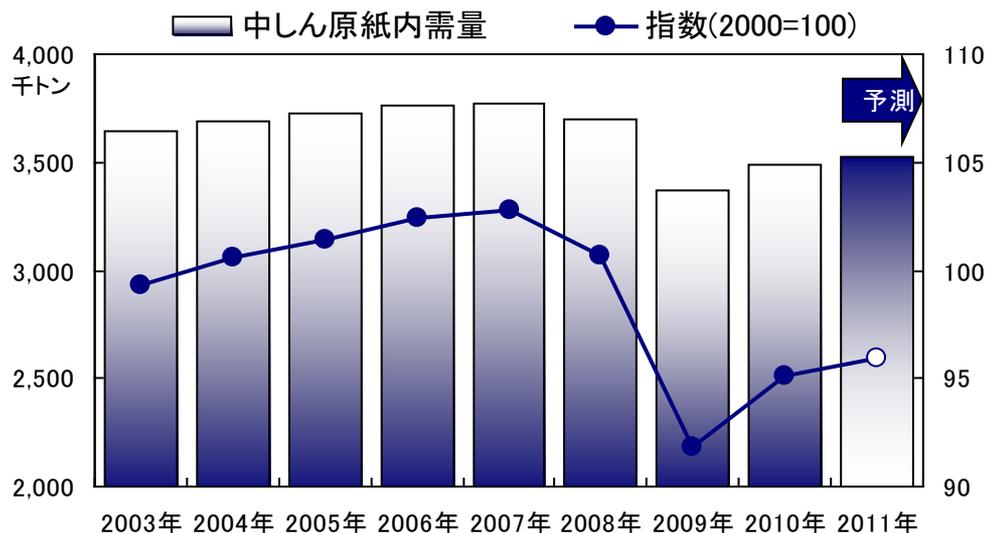
「2011年予測:主要需要分野の動向」

☆加工食品(2010年1-10月需要部門別構成比:41.2%)は、節約志向を背景に内食化が浸透してきたことから、レトルト食品や冷凍食品等は需要の増加が見込まれ、菓子関係も店頭での価格低下や家庭内飲酒の増加を背景に需要増が見込まれることもあり、食品関係は前年を上回ることが予想される。飲料関係では、ビールは、「第三のビール」が家庭内需要の高まりと低価格志向から拡大を続けているものの、「ビール」、「発泡酒」は減少傾向であるため、ビール類全体では期待できない。清涼飲料は、コーラ飲料を中心に炭酸飲料が好調をキープしているものの、ミネラルウォーターや茶系飲料は伸び悩んでおり、前年猛暑需要で大幅増となったスポーツドリンクは反動減が予想されることから、全体として伸びは期待できない。

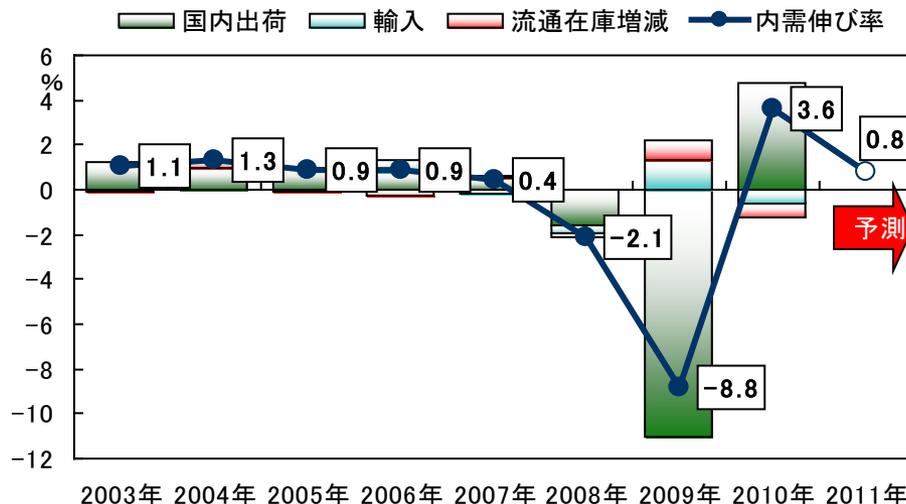
☆青果物(構成比:12.0%)は、作付面積が減少傾向といったマイナス要因はあるものの、前年の猛暑等天候不順の影響による記録的な低出荷の反動も期待されることから、増加が予想される。

☆電気器具・機械器具(構成比:8.7%)は、前年のエコカー補助金やエコポイント制度、猛暑需要の反動に加え、円高による輸出への影響も懸念されることから、減少が予想される。

(9) 段ボール原紙③



寄与度



「2011年予測: 主要需要分野の動向」

☆薬品・洗剤・化粧品(構成比:5.9%)は、メタボ関連や美容分野、漢方薬市場は堅調に推移しており、またジェネリック医薬品への普及促進策に伴う需要増も期待され、増加が予想される。

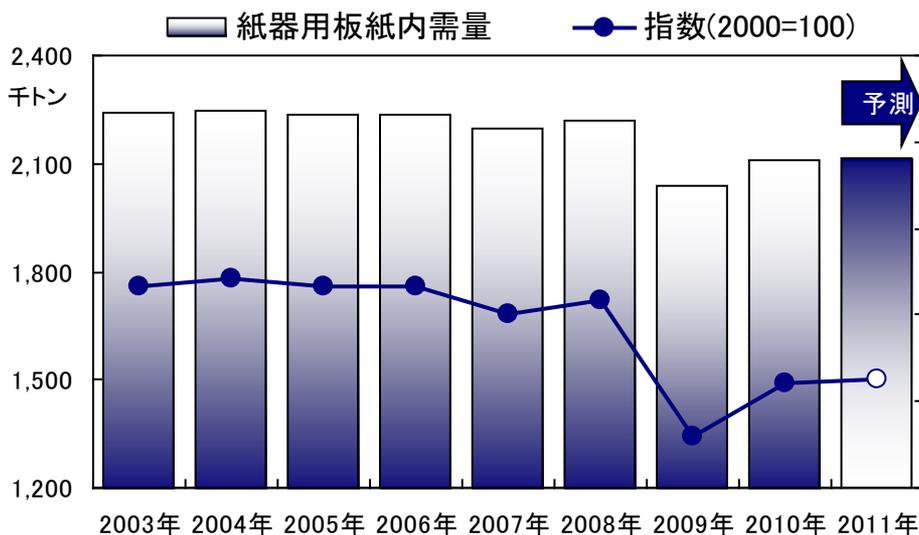
☆陶磁器・ガラス製品・雑貨(構成比:5.8%)は、廉価な輸入品の流入は懸念されるものの、住宅需要の増加や、それに伴う波及効果も見込まれることから、増加が予想される。

☆通販・宅配(構成比:3.1%)は、消費者の節約志向や巣ごもり消費の高まり、そして通販市場の充実化等を背景に拡大しており、今後もこの傾向は継続すると予想される。

☆繊維製品(構成比:2.3%)は、スーパー、百貨店の衣料品販売は消費者の節約志向から概して不振も、低価格品市場は増加が期待されるため、ほぼ前年並みと予想される。

☆包装用以外(構成比:1.0%)は、段ボールパレット、段ボール家具などがこの分野に含まれるが、環境配慮から段ボールパレット等の需要は期待され、増加が予想される。

(10) 紙器用板紙—①



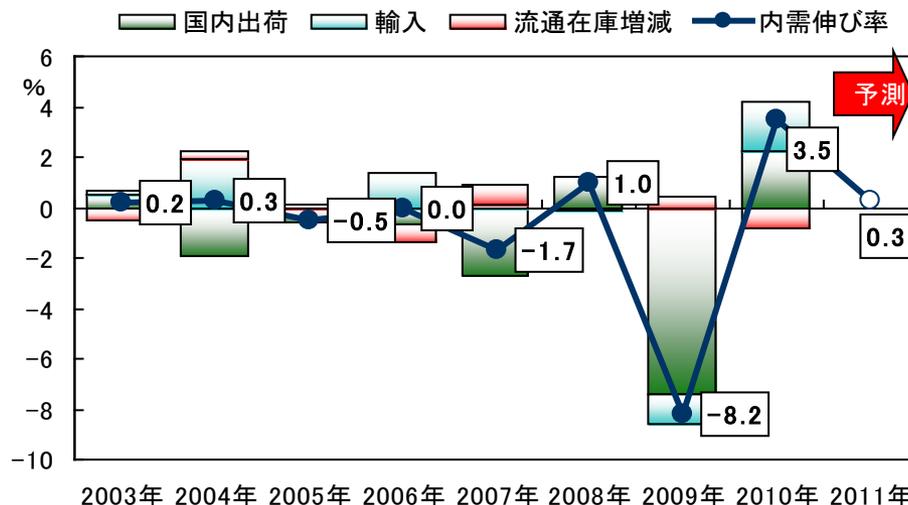
「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は、2002年以降ほぼ横ばいで推移していたが、2009年は長引く景気低迷から8.2%減と大きく落ち込んだ。2010年は前年の大幅減の反動から3.5%増とプラスに転じ、若干の持ち直しを見せた。

「2011年予測」

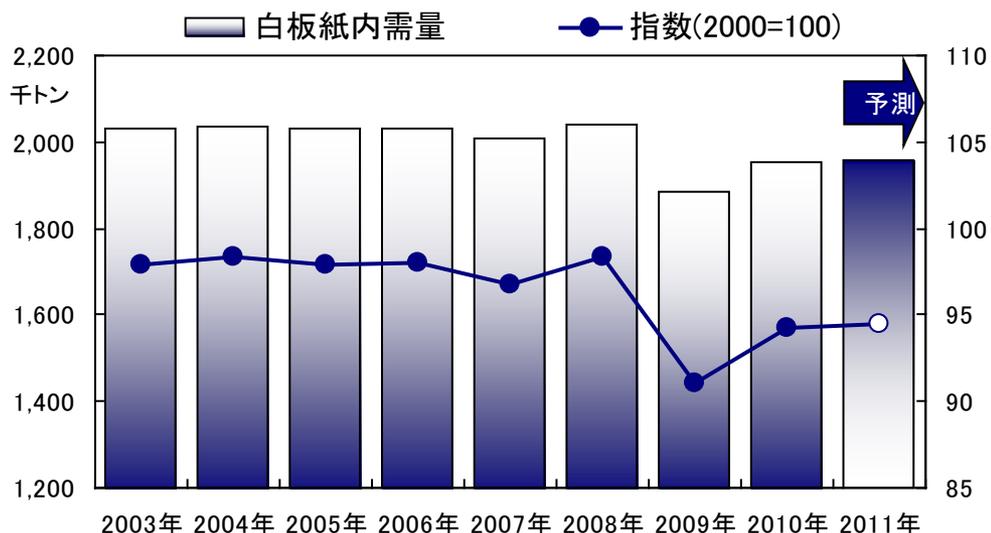
☆需要家のコスト意識は依然として強く、薄物化や箱の小型化といったコスト削減への動きは引き続き予想されるも、内食化や“家ナカブーム”の継続、更に環境配慮からプラスチック等他素材から紙へのシフトも見込まれるため、食品関係を中心に堅調と予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し(白板紙0.3%増、黄・チップ・色板紙0.0%)と予測した。

(10) 紙器用板紙—②



「2011年予測:主要需要分野の動向」

☆食品は、“家ナカブーム”、“家飲み”といった表現が出回るように、節約志向を背景とした内食化は継続するとみられる。その中で、レトルト食品は低価格志向ともマッチし、カレー類を中心に増加が見込まれ、また菓子関係はビスケットやチョコレート等が店頭での価格低下等を背景に需要増が期待されることもあり、全体では前年を上回ることが予想される。

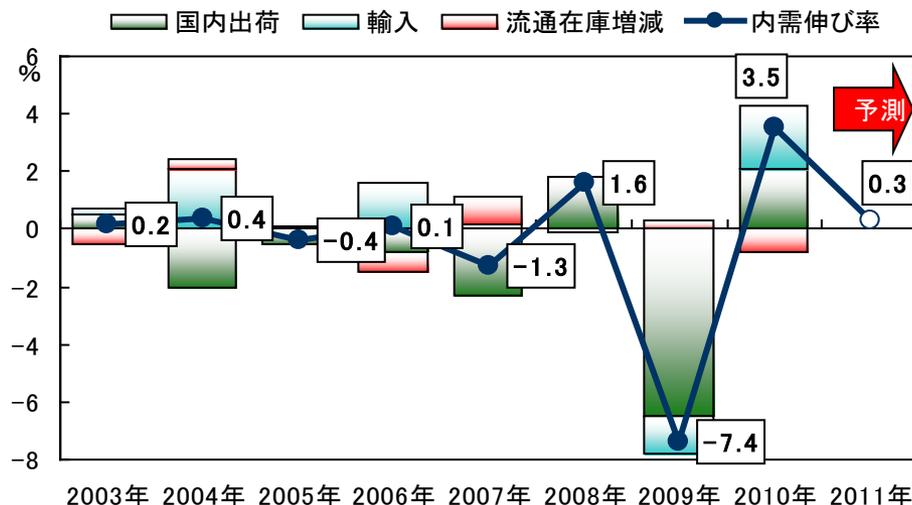
☆医薬・化粧品は、メタボ関連や美容分野は堅調と予想され、ジェネリック分野も普及促進策による需要増が見込まれる。また環境配慮から、他素材から紙へのシフトも期待できるため、増加が予想される。

☆洗剤向けは、前年に粉末から液体へのシフトが急速に進み大幅減を余儀なくされたが、この動きも一段落ついたことから、ほぼ前年並みと予想される。

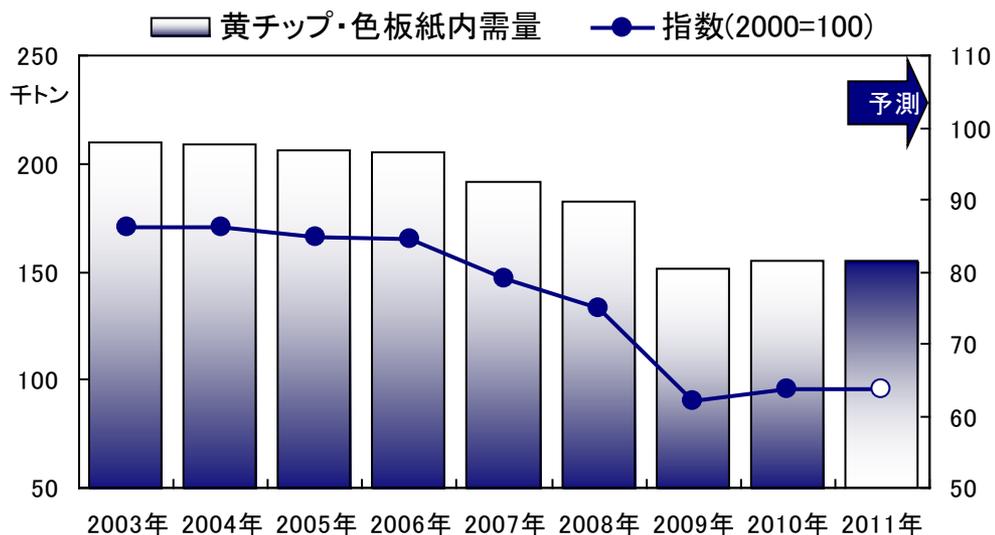
☆ティッシュ向けは、消費者の節約志向を背景にティッシュ需要があまり期待出来ず、一部ティッシュボックスの軽量化もみられることから、減少が予想される。

(次頁に続く)

寄与度



(10) 紙器用板紙—③



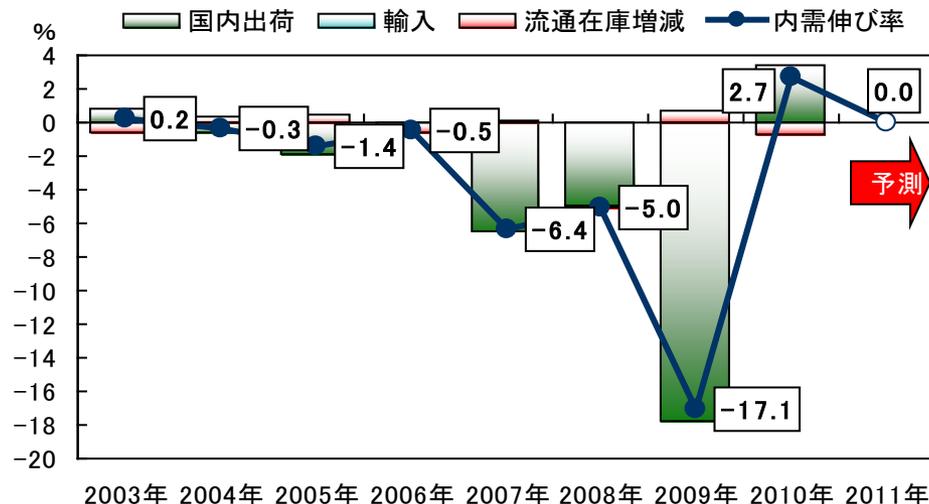
「2011年予測:主要需要分野の動向」

☆商業印刷は、企業の広告宣伝費圧縮に伴いカタログ、パンフレット等が引き続き減少が見込まれ、全体としてはマイナスが予想されるも、店頭販促品であるPOP向けやトレーディングカードは堅調と予想される。

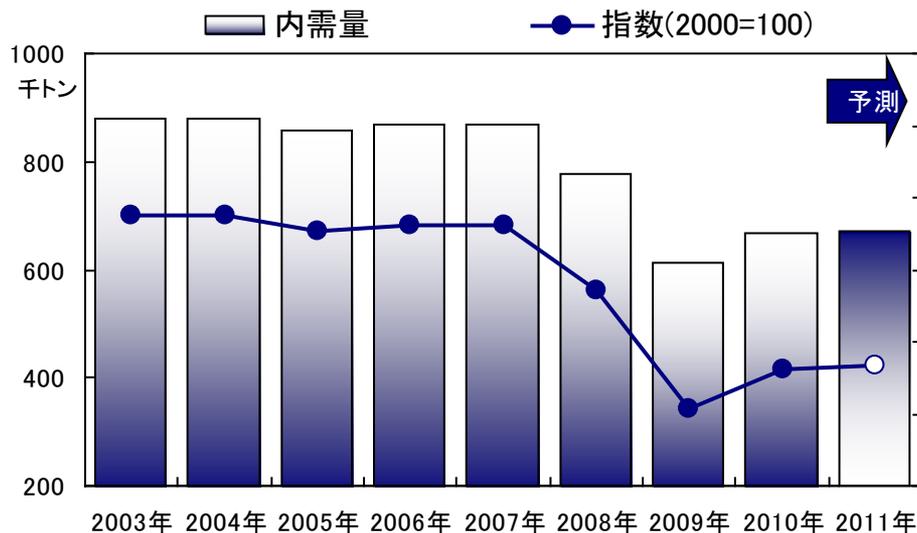
☆出版印刷は、人口減、活字離れといった構造的な要因に加え、定期刊行物の休廃刊、発行部数減も引き続き予想されるため、雑誌の表紙やハードカバーの芯等については厳しい状況が続くと見られる。

☆文具事務用品は、少子化やOA化の浸透に加え、企業の経費削減等によりファイル類の減少傾向は継続すると見られる。

寄与度



(11) その他の板紙



「近年の動向」

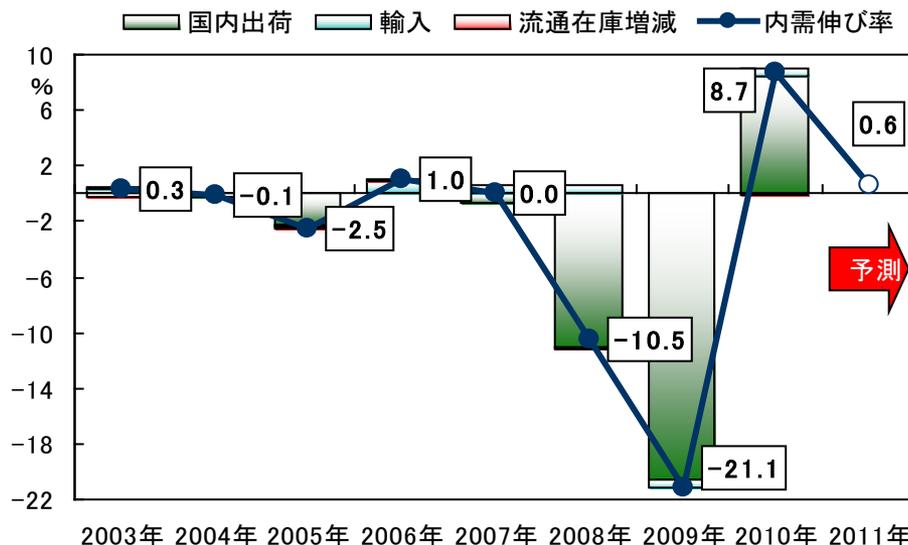
★その他の板紙の内需は、主要品種の建材原紙が2008年の改正建築基準法の影響等により大きく減少、2009年も景気低迷の影響から更に減少し、2割以上の大幅な落ち込みとなった。2010年は、前年、前々年の大幅減の反動もあって高い伸びを示したものの、依然として2007年以前の水準を大きく下回っている。

「2011年予測」

☆主要品種について、①建材原紙は、住宅版エコポイント制度・フラット35Sの金利優遇拡大措置の適用延長等を下支えとした住宅需要の回復から増加が見込まれる。②ワンプについては、印刷用紙の需要の減少傾向が続くことから減少が見込まれる。③紙管原紙は、ワンプ同様、印刷用紙の需要減により製紙用は減少、フィルム用についてもエコカー補助金・家電エコポイント制度の終了といった政策効果の剥落等により減少が見込まれる。

☆以上を勘案し、その他の板紙の内需は前年に対し0.6%の増加と予測した。ワンプ・紙管原紙は前年を下回るものの、近年落ち込みの大きかった建材原紙の回復により微増と見込んだ。

寄与度



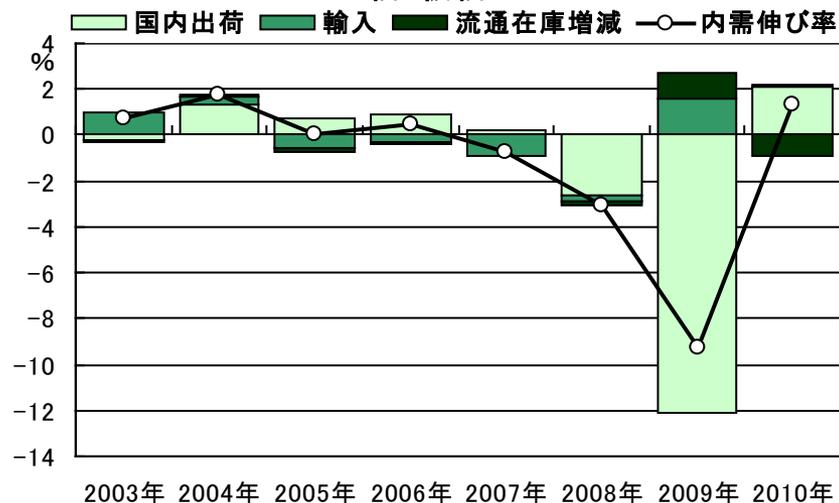
Ⅲ. 2010年紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

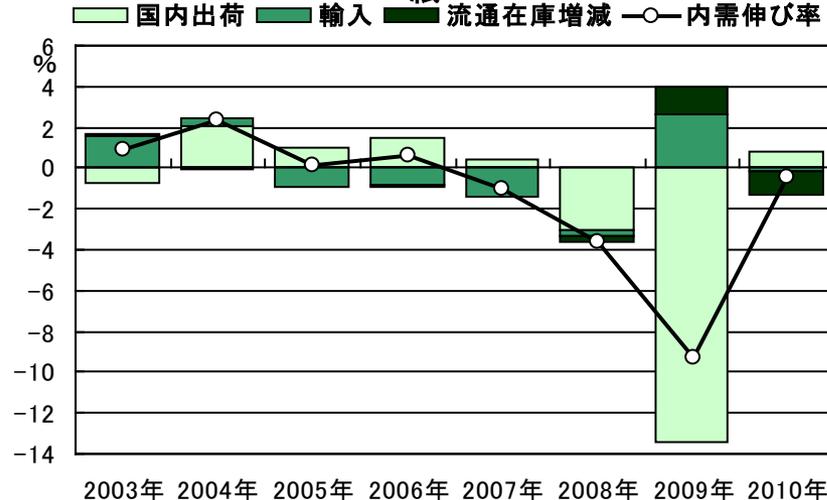
品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		10年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	3,314,394	98.3	39,872 [↓]	93.7	3,354,266	98.2	0	3,354,266	98.2	97.1	1.1
	非塗工印刷用紙	2,302,034	98.5	204,541 [↓]	105.9	2,506,575	99.1	12,422	2,494,153 [↓]	96.6	97.9	▲ 1.3
	塗工印刷用紙	4,855,019	100.6	692,161 [↓]	93.8	5,547,180	99.7	▲ 9,790	5,556,970	97.7	97.2	0.5
	情報用紙	1,457,510	102.0	433,859 [↓]	104.1	1,891,369	102.5	709	1,890,660	102.4	99.0	3.4
	印刷・情報用紙計	8,614,563	100.3	1,330,561 [↓]	98.7	9,945,124	100.1	3,341	9,941,783 [↓]	98.3	97.7	0.6
	未ざらし包装紙	542,966	113.5	12,014 [↓]	105.0	554,980	113.3	1,945	553,035 [↓]	112.7	101.8	10.9
	ざらし包装紙	300,095	104.5	1,302	115.3	301,397	104.6	1,675	299,722 [↓]	103.2	99.2	4.0
	包装用紙計	843,061	110.1	13,316 [↓]	105.9	856,377	110.0	3,620	852,757 [↓]	109.2	100.8	8.4
	衛生用紙	1,777,534	100.1	24,951 [↓]	88.1	1,802,485	99.9	0	1,802,485 [↓]	99.9	100.0	▲ 0.1
	雑種紙	781,389	113.3	19,714 [↓]	84.4	801,103	112.3	0	801,103	112.3	100.4	11.9
	紙 計	15,330,941	100.9	1,428,414 [↓]	98.2	16,759,355	100.7	6,961	16,752,394 [↓]	99.6	98.1	1.5
板紙	ライナー	5,134,625	104.3	88,674 [↓]	132.3	5,223,299	104.6	▲ 6,013	5,229,312 [↓]	104.1	101.2	2.9
	中しん原紙	3,442,444	104.9	46,647 [↓]	69.2	3,489,091	104.2	▲ 3,656	3,492,747 [↓]	103.6	101.2	2.4
	段ボール原紙計	8,577,069	104.5	135,321 [↓]	100.7	8,712,390	104.4	▲ 9,669	8,722,059 [↓]	103.9	101.2	2.7
	白板紙	1,484,580	102.8	470,636 [↓]	109.7	1,955,216	104.4	3,010	1,952,206 [↓]	103.5	99.1	4.4
	黄チップ・色板	155,351	103.5	0	-	155,351	103.5	204	155,147 [↓]	102.7	98.0	4.7
	紙器用板紙	1,639,931	102.8	470,636 [↓]	109.7	2,110,567	104.3	3,214	2,107,353 [↓]	103.5	99.0	4.5
	その他の板紙	648,413	108.5	18,090 [↓]	121.3	666,503	108.8	906	665,597 [↓]	108.7	99.7	9.0
	板紙計	10,865,413	104.5	624,047 [↓]	107.9	11,489,460	104.7	▲ 5,549	11,495,009 [↓]	104.1	100.7	3.4
紙・板紙計	26,196,354	102.4	2,052,461 [↓]	101.0	28,248,815	102.3	1,412	28,247,403 [↓]	101.3	99.1	2.2	

IV. 参考① サプライ別内需寄与度の推移

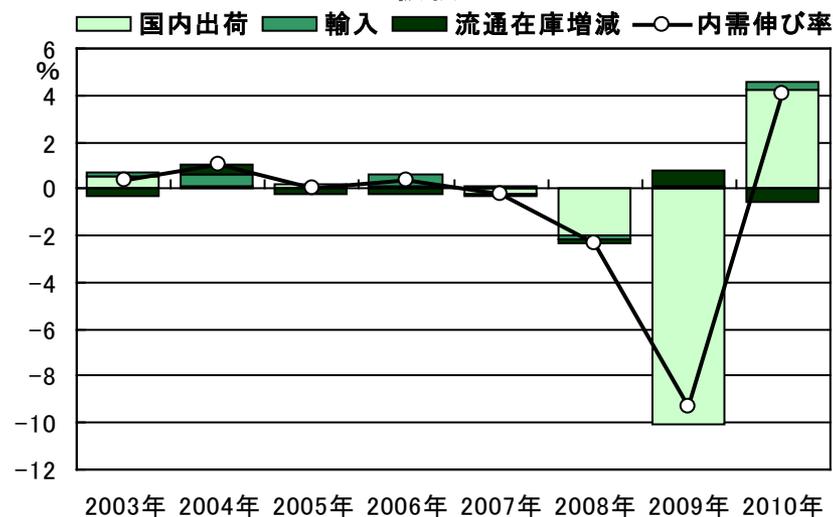
紙・板紙



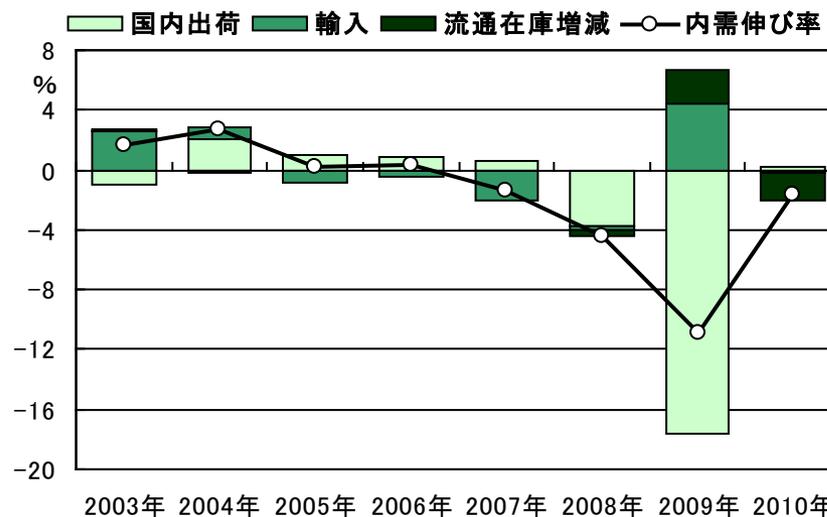
紙



板紙



印刷・情報用紙



参考②

内需の定義

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品」としてトイレットペーパーとミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等統計的な手法を採用している。

参考1.経済見通し				
機関別	政府		民間23機関平均値	
	FY2010	FY2011	FY2010	FY2011
実質GDP	3.1	1.5	3.1	1.4
鉱工業生産	8.6	2.5	8.7	2.5

国際機関の暦年見通し		
実質GDP	CY2010	CY2011
OECD	3.7	1.7
IMF	2.8	1.5
世界銀行	4.4	1.8

発表日: OECD 10.11.18、IMF 10.10.6、世界銀行 11.1.12

参考2.紙・板紙内需の対実質GDP弾性値			
データ期間	紙・板紙合計	紙	板紙
過去10年間(00~10年)	▲0.00	0.01	▲0.03

参考3.段ボール原紙内需の対段ボールシート(生産)弾性値	
過去10年間(00~10年)	1.14